

| 教学入門 (8) 宿命転換 |

日蓮仏法は、生命を根幹から変革して自身の運命を切り開き、現在と未来にわたる幸福境涯を確立する、宿命転換の仏法である。

① 宿命転換

今世で説明がつかない苦難の原因は、過去世における行為（業）の結果である。

人生の悩みや苦難の原因には、今世の行為も過去世の行為もある。

業 = 行為の意味。

宿業 = 今世の幸不幸に影響する過去世の行為。

宿命の転換を説くのが日蓮大聖人の仏法である。

宿命転換 … 妙法を信じ実践することで妙法への根本的悪業を今世のうちに転換すること。

誇法（誹謗正法）こそが根源的な罪業であるがゆえに、正法を信じ、守り、弘めていく実践によって宿命転換ができる。

※ 宿命転換の実践の核心が、南無妙法蓮華経の題目である。

② 転重軽受（重きを転じて軽く受く）

広宣流布の途上で苦難に出会って宿命を転換できることは転重軽受の功徳である。

転重軽受 … 正法信受の功徳によって重罪の報いを軽く受けて罪業を消滅させること。

本来は過去世の重い罪業は今世来世にわたって苦しみの報いを受けねばならない。

仏法を信じて広める実践の功徳力で、重罪の報いを一時に受けて、すべて消滅させることができる。

地獄の苦しみぱつときへて

苦難は、宿業を消し、生命を鍛錬させる重要な機会である。

③ 願兼於業（願いが業を兼ねる）

偉大な功徳を積んだ菩薩が、悪世で苦しむ人を救うために、わざわざ自らの清浄な善業の報いを捨てて悪世に生まれることを願う行為。

信心を実践する者にとって悪世で苦難を受けることは、「宿命」ではなく「菩薩の誓願」である。

宿命に苦しむ人と苦難を共有して、苦難を乗り越える模範を示す「使命」を持っている。

【宿命を使命に変える】

宿命の役割が悪から善へと変わる。

「全てが自分の使命である」と受け止めて前進し抜く人が、宿命転換のゴールに向かっている。